

千歳でも脱出研修開始

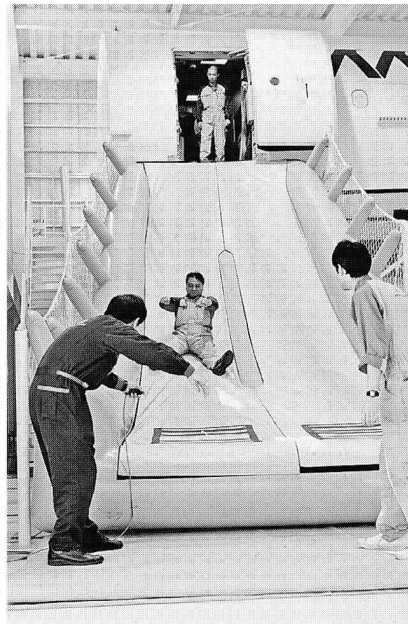
日航、発煙事故受け社員に

【千歳】新千歳空港で2016年2月に航空機から乗客らが緊急脱出した事故を受け、日航は航空関連産業従事者を養成する日本航空専門学校（千歳市）で、札幌、千歳両市で働くグループ社員を対象に、今年4月から緊急脱出時に乗客を誘導する研修を始めた。

事故では右エンジンから発煙し、乗員乗客165人が誘導路で航空機から緊急脱出。この際に1人が背骨を折る重傷を負うなど計3人の負傷者を出した。脱出シミュターでの避難

を手助けする人が少なかつた可能性があるなどの教訓を踏まえ、日航はパイロットや客室乗務員以外の全社員を対象に緊急脱出の支援

について、16年11月から21年3月まで東京などの施設で研修を行う。道内の対象者は約800人おり、これまで東京などの施設で研修を行ってきたが、今年4月から日本航空専門学校が持つ専用施設で新たに研修を開始。既に計112人が参加した。



緊急脱出の手順を確認した日本航空の研修。16日、日本航空専門学校新千歳空港キャンパス

今月16日の研修では、出入り口ドアや脱出シミュターの使い方を確認。乗客に対して荷物を持たないよう要請することなどを学んだ。JALエンジニアリング千歳整備部の斉藤源二さん(55)は「万一のときは機内でお声がけなどを行い、お客さまを助けられるようにしたい」と話した。

（池田大地）